

一般社団法人
北海道日中経済友好協会
平成29年度

友好 ヨーハオ

2017年5月23日発行

発行者

〒001-0020 札幌市北区北20条西5丁目2番50号

ロイヤルセーフティビル 2F

一般社団法人 北海道日中経済友好協会

会長 中田 博幸

(TEL) 707-0030 (FAX) 707-0035

14次中国経済視察団を派遣

山東省の経済事情を中心に視察

2016年9月、当協会は中国山東省の主要都市の経済事情の視察旅行を実施しました。今次経済視察は中国駐札幌総領事館の全面的な協力を得て行われたもので、中田博幸会長を視察団長に協会関係者15名が参加しました（詳細後掲）。

視察旅行を終えて

島田 健 会員

今回の北京・山東省訪問はたいへん楽しくかつ有意義な旅行でした。現地でお会いした方々、また参加者のみなさんも多彩で貴重な交流の時を過ごすことができました。

印象に残ったことは数多くありますが、ここでは二つに絞ります。

一つは高速鉄道の乗車経験です。今回、北京南駅から泰安まで乗車し、まず運行時間が正確なことに感心しました。日本では当たり前のことですが、長距離区間が多い中国の鉄道で運行時間を守ることは決して簡単なことではないと思います。いくつかの駅に停車し、私の隣および近くの席で頻繁に乗り降りがありました。確か厦門方面に向かう長距離列車でしたが、駅ごとに乗車と降車が繰り返されました。一駅だけ乗るという客もかなりいました。これは高速鉄道が一般住民の身近な足になっている証しだと感じました。

もう一つは食事をご一緒した日照市の筆頭副市長です。外務省のキャリア外交官で韓国に長年駐在していた方とうかがいました。韓国に近く、定期フェリーが運航されている工業・港湾都市の日照にとって、韓国との関係はきわめて重要なのでしょう。これから先10年、20年を見通してその筆頭副市長に韓国専門家を据える中国共産党の幹部人事政策のしたたかさに驚きました。

高田室長が北京でお話されていた通り、日本から中国をみると、とかくバイアスがかかるように思います。とにかく現地を歩いてみる。その大切さを痛感する旅になりました。



9月10日 日照市政府首脳との懇談会記念写真

一般社団法人
北海道日中経済友好協会会長あいさつ

会長 中田博幸



会長就任以来3年目を迎えます。この3年間を振り返ってみますと、当協会として、会員の皆様のご協力を頂きながら、少しでも北海道と中国の中小企業の皆様との具体的な経済交流に結び付く様な事業を推進したいとの思いで活動に取り組んでまいりました。

この間、中国日本友好協会様と当協会が友好団体の覚書を交換する事ができ、そのご協力のもと、中国への経済訪問団派遣の際には浙江省を訪問し、杭州市で地元企業人との情報交換やビジネスマッチングを行うなどの事業も実施することができました。

また、昨年には駐札幌中国総領事館様のご支援により、経済訪問団を中国・山東省に派遣し、日照市の街づくりの視察、そして青島市ではビジネスミーティングを実施する等、事業を一步前に進めることが出来たのではないかと考えております。

これからも、当協会として会員の皆様に提供できる事業を積極的に考え、中国を通し会員企業の皆様が発展していけるような協会を目指して参りたいと思いますので、来年度も会員の皆様のご協力、宜しくお願い申し上げます。

2016-17年度 協会の歩み

■2016年5月20日

山東省交易視察団との商談交流会

札幌市中央区のキャリアバンクにおいて、山東省企業代表会社10社による商談会を後援しました。

■2016年5月24日 定例総会を開催

札幌市中央区の札幌通運㈱会議室において平成27年度一般社団法人北海道日中経済友好協会定例総会を開催しました（会員数102名）。

■2016年7月31日

チャリティーゴルフコンペを開催

ダイナスティーゴルフクラブ北広島にて第16回中国総領事杯チャリティーゴルフコンペを開

催しました。中田会長をはじめとして会員18名の参加があり、親睦を深めました。当日のチャリティー金は16,800円で、全額留学生基金へ寄付されました。

■2016年8月3日

中国総領事館との交流の夕べを開催

中国駐札幌総領事館（札幌市中央区）において、孫振勇総領事をはじめ総領事館員とご家族らと当協会員の親交を目的とした「交流の夕べ」を開催しました。また、あわせて中国からの留学生に対する支援事業により選考した留学生5名に対して奨学金の授与を行いました。参加者は60名でした。

■2016年9月7日～9月13日
第14次中国経済視察旅行を実施

詳細は後掲。

■2016年12月14日 留学生との交流会を開催

キャリアバンクセミナールーム（札幌市中央区）において、北海道在住の中国人留学生を対象とした、「中国人留学生の日本での就職」をテーマとしたセミナーを開催しました。当日は15名の留学生の参加があり、セミナー終了後は当協会員17名を交えた「交流夕食会」を開催しました。



交流夕食会でスピーチをする
樫武愛子理事

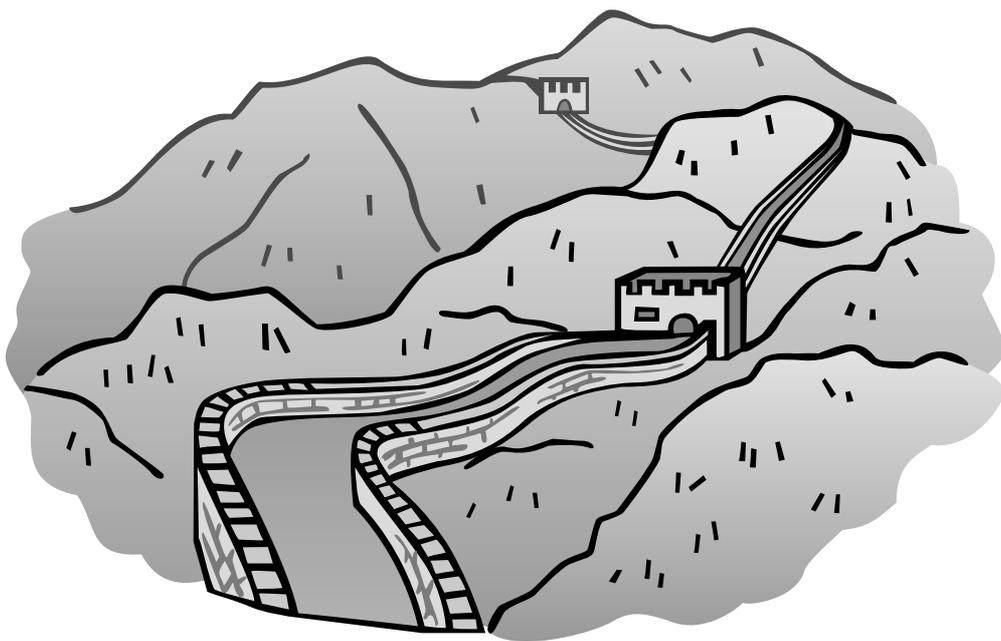
■2017年1月24日 新年恒例会を開催

札幌市中央区のノホテル札幌において、当協会の平成29年新年恒例会を開催しました。中国駐札幌総領事館からは孫振勇総領事と令夫人をはじめ3名の領事のご臨席を賜り、また協会からは理事および会員約43名が出席者しました。

中国の春節の時期と重なり華やかな雰囲気の中、親しく交流を深めるとともに、留学生に対する後期の奨学金の贈呈式も挙行了しました。



孫総領事夫妻と中田会長を扶んで
奨学金の贈呈を受けた中国留学生



平成28年度 中国私費留学生支援奨学金授与事業の報告

平成28年度の事業計画に基づき、中国私費留学生支援奨学金授与事業を実施しました。7月25日、道内10大学に募集案内を送付したところ48名の中国留学生からの応募があり、書類審査を経て7月16日協会事務局にて面接審査を行った結果、下記名簿5名の留学生に対して奨学金(1名につき、前後期合計60万円)の支給を決定しました。

なお、本事業実施に当たっては、「公益法人似鳥国際奨学財団」様より300万円の助成を賜っています。

平成28年度中国奨学生名簿

楊 恵翔	23歳	湖南省出身	北海道大学大学院
鄭 斯勻	23歳	広東省出身	北海道文教大学
徐 志淳	24歳	西安市出身	酪農学園大学
徐 玲	25歳	湖北省出身	北海道大学大学院
邵 晶晶	25歳	瀋陽市出身	北海道教育大学大学院

留 学 生 の 主 張



楊 恵 翔

湖南省出身

北海道大学大学院

私の留学の一番重要な目的は「学ぶこと」である。学部生の時から研究者になりたいと考えてきた。日本の学術環境は良い。研究施設が整っており、研究者も研究に敬意を持っている。特に、博士学位の授与が非常に厳しく、日本の博士号をもらう人は、本当の研究能力を持つと評価されている。また私の専門領域である認知心理学と脳科学の領域で、日本はリードし続けている。その中でも北海道大学には最新のfMRIがあり、それを応用した研究が数多く行われていて、研究環境が非常に優れている。そして、私の指導教員である

小川健二准教授は研究能力が高く、知識が豊富で、真面目である。そのため、私は北海道大学に来た。北海道大学に来てから9ヶ月が経った。演習での討論は盛り上がり、先生は熱心に質問を答えて下さる。講義の種類が豊富で学会発表の機会も多くある。私が想定していた通り、北海道大学の研究環境は良く、研究に対しての意欲が更に増している。

私は今修士1年生で、将来博士課程に入り、博士号を取得した後中国に戻る予定である。日本で学んだ知識と厳格な研究雰囲気をも中国に持ち帰るつもりである。日本と中国の学術界の一つの架け橋になりたい。

そして私は日本と中国の民間交流の一つの架け橋になりたい。一方、日本に偏見を持つ中国人の見方を変えることである。中国で僻地の住民は日

本の国家と国民に強い偏見を持っている。私の故郷は田舎のため、来日に不満を持つ友人も少なくない。原因は多くあるが、その一つとして、都市から離れていて外部との交流が少ないため日本への理解がほとんどないことが挙げられる。根本からこの問題を解決できないが、周囲の人物からでも、少しずつこの問題を解決したい。私が見た本当の日本を中国の友人に話し、友人にも日本に来てもらうことや、日本人から学んだ良い習慣を、中国に帰った際に披露し、細かいところで周りの人の見方を変えたい。その一方で、中国人に偏見を持つ日本人の見方を変えたい。この留学で出会った日本人は皆、私に善意を持ってくれるが、中国人に対する偏見を持つ日本人も確かにいるはずである。多くの中国人は様々な場面で周囲に気を配ることができないという悪い習慣があることは事実である。そのため偏見とは言えないだろう。全中国人の習慣を改善することはできないが、自分自身を変えることはできる。私は、日本の法律や習慣などにきちんと従い、優れた人物になる。そして、真面目に勉強し、一意専心研究に励む。このような自分の行動で周りの人の中国への偏見をなくしたい。



鄭 斯 勻

広東省出身

北海道文教大学

日本語を勉強し始めたところ、もう心の中にはいつか日本に行って、この世界の多様性の一面を見たいという考えが芽生えていました。大学に行って両親の元を離れた時に、まだ未成熟な高校生みたいに目から涙が溢れ出てきました。そんな心の弱い人間になりたくないと思

ました。

延々たる人生の行路で、必ず今までの自分に影響を与えた人々がいるはずなのです。その影響こそが人生の変わり目に契機をもたらしたと私は考えています。「どうして大人になる道には、成長すればするほど、一人ぼっちを感じたり、不安を感じたり、楽しくなくなったりするのか」と考えていたのですが、その答えが前の言ったように自分に影響を与えた人が答えてくれました。

それは楽しさを追求している間に、本当の自分を離れて、初心が失われてしまうのだと日本語の先生が教えてくれました。先生のおかげで、日本の美意識という文化を知り始めました。寂び、詫びとも言えますが、一般的に、質素で静かなものを指しているのです。「閑寂さの中に、奥深いものや豊かなものが自ずと感じられる」という美しさを先生が本人の経験とオーラによって私に感じさせました。

我々は一体何を追求して、欲しがっているのでしょうか。世の中の人びとが誰もがほしいものなのでしょうか。お金ですか？もちろん、お金は誰にしても欲しがっているでしょう。権力ですか。それもいろいろな人が追い求めているもので明らかになっている。それらの前提として健康も我々が欲しがっているのですが、それらを除いて、「寂び」という文化から、自分が欲しいものが豊かな心だというヒントが降りてきました。

それで自分の美意識の文化に身をもって一度感じたいと願っています。成長していく道ほどには、様々な誘惑があって、自分の初心を忘れやすいに違いない。その戸惑っている自分が周りの景色が違ふところに、未知の自分と出会い直したいのです。日本文化には「わざと飾り付けなしで、物事の素朴な内面的な存在こそが、時の流れに耐える

ものである」と私は発見しました。本質的な人生の美しさを探しに日本に留学しました。

周りの誘惑に左右されたくないため、心の自由がないといけないと思うのです。本当の自由が外的なものではなく、内的なものです。日本に来る前に、ずっと一筋の人生を生きていましたが、そのような人生のパターンが身を縛っている紐のように、自分の思想を縛っています。人生は、ただ一つの生き方で生きていくわけではない、自分の心の声にしたがって、この多様性が溢れている世界を見に行き、人生パターンに制約された自分を自由にさせられると私は信じています。

未知の自分と出会い直したいのです。今までこの初心が日本に来てからいつも変わらなかった。



徐 志 淳

西安市出身

酪農学園大学

私は徐志淳と申します。今酪農学園大学の環境共生学類野生動物学コースに通っています。このたび、学業の継続のため、貴機構の奨学金を申請させていただきたいと思います。

私は今年4月酪農学園大学に編入しました。私は今年23歳で、両親からすでに経済的に独立しています。酪農学園大学は北海道の有名な私立大学で、ここで学ぶために、今まで勉強したり、貯金したり、いろんな準備をしましたが、今では不十分なところをいくつか感じました。その中でも経済的な事情がこれからの勉強生活の最も大きな妨げとなっています。そのため、私は自分だけの努力では、これからの学業や生活を維持することが困難だと判断しました。

私は幼いころから自然に対して興味を持ってい

て、野生動物保護のボランティア活動も参加したことがあります。日本は先進な森林大国で、森林面積が国土面積の66パーセントも占めていて、その中の北海道は特に林業や農畜業が有名であります。しかし、現在日本は北海道だけではなく、全国で農産物に対する獣害が頻発していて、このことは人と野生動物の関係、また野生動物に対する認識にも影響しています。酪農大学は地球環境の中で形成された様々な循環を重視し、人間と野生動物の間の調和を重視する「三愛精神に基づく健土健民」の理念を強く抱いています。私はその精神に心から共鳴を感じています。ゆえに私は酪農大学で専門知識を身に付け、獣害を動物の立場から考え、根源から問題を解決するような研究に取り組みたいと思います。いつか人間が野生動物、そして生命環境と共生していくような環境を作りたいと、私は強く考えています。

しかし、そのための研究や実地調査をするためには、大量な時間が必要なのです。もしこの奨学金を獲得できれば、私は経済的問題によるストレスも解消でき、もっと積極的に勉強や研究活動に参加できると信じています。



徐 志 玲

湖北省出身

北海道大学大学院

私の両親はとても子供が好きです。当時は一人っ子政策の真っ只中、その様な環境で生まれた私は祖母の元に預けられました。私には三人の兄弟がおり、皆、学生です。父は長い闘病生活のため、母一人で働き貧しい生活をしていました。そんな状況の中、私が日本へ留学するとは想像すら出来ませんでした。

高校の頃、志望していた大学への受験に失敗。私の夢を実現するためアルバイトをしながら再度受験を試みましたがまたも失敗。その時、私は茫然自失となりました。ですが私は諦めず努力しました。私は他の大学に入り日本語を専門に選びその時初めて日本人の先生、山田先生と出会いました。山田先生は元々日本の大手会社で高位の役職に就いており五十歳の頃、日中関係が悪化している事に不安を抱いた山田先生は友好の一助となればと来日されました。そして、未来の中国を担う若者と接点の多い大学で日本語の先生になられました。

山田先生からは様々な実習を含めた日本の文化を学びそして、味わった事のない手作りの美味しい日本の料理を作ってくださいました。中日友好のためこの様に頑張っている日本人に感謝し私も山田先生のように中国人の優しさを日本人に伝えていきたいと心から思いました。そして、私は日本への留学の決心をしたが母からは経済的に難しい事、両国の関係が悪化しつつあるという理由で反対されました。

しかし、私はどうしても留学したい、親を説得し資金を大学四年間の優秀奨学金、政府奨学金、そしてアルバイトで貯めたもので日本への留学をする事が出来ました。今年の一月二十五日、私は北海道中国友好協会の理事として日中友好協会新年交流会に参加しました。そして、その交流会は国籍、年齢を問わずお互いの交流を深め我々留学生に対し多くの声援を頂きました。そこで九十五歳になるという日本の方がおり、その方は日中友好のため若い頃から一生懸命努力しており、私に「頑張っただね。中国と日本の未来はあなた次第」と私の手を握ってそう言いました。その時私の目には涙が溢れました。我々留学生は国の架け橋と

して重大な使命を背負っています。日本に留学している間、日本の文化を体験し日本人の優しさと素晴らしさに触れた感動を国の人々に伝えていきたいと思いました。

私は今、北海道大学の環境科学院の院生として国際環境保全について学んでいます。留学後多くのチャンスに恵まれ国内の国際的なカンファレンスに参加出来、国際的な視野で各国の学生と環境問題についての交流が実現したばかりか、先月北海道大学の代表としてドイツで開かれた国際大学交流会に参加する事が出来ました。来月にはアメリカの国際会議にも参加する事が決まりました。

私は両国の架け橋として有効交流を目指し頑張りを続けていきたいと、今後も日中両国の国民が互いに理解を深め友好関係を一層深められるよう心から願っています。卒業後は日本で得た先進的な理念や技術を中国に持ち帰り様々な事に活用していきたいと思えます。そのために私はもっと沢山の知識を身につけまだある問題のため勉強をしていきたいと思えます。

私は去年の面接で通りませんでした。そして、私はどうしていいか迷っていました。その時に山田先生から「失敗は成功の母、失敗した事は自分の不足を見つけて反省すれば成長できる。」と励まして頂きました。私は何事も出来ると思信し過ぎていました。ですが、その失敗を経験して改めて自分を見つめ直し努力していきたいと思えます。今年の2度目のチャンスを私は大切にして頑張ります。この約2年間の大学院生で私は自分の知識が未熟で中国の環境問題などを解決するためにもっと沢山の知識を身につけなければなりません。そして大学院生を卒業後、私は博士を目指しています。今以上に勉学に力を入れ将来に向け誠

心誠意励んでいきます。よろしくお願ひ致します。



邵 晶 晶

瀋陽市出身

北海道教育大学大学院

私は、高校の授業で、日本語と日本文化を学び、興味を持った。大学で、日本語を専門に学んだ。一昨年、一年交換留学で北海道教育大学（札幌校）に留学に来た。留学のきっかけは、先生が日本語を勉強したから留学した方がいいと言ってくれて、自分も外国での生活に挑戦したいからであった。ごく普通な理由だった。

現在、北海道教育大学大学院で日本の戦後史を勉強したいと思って留学した。

一昨年、大学の国際課から誘われて、混声合唱「悪魔の飽食」を見に行ってきた。日本人は混声合唱組曲「悪魔の飽食」で不戦を誓い、戦争の過程を反省していることに感心した。日本現代史の講義を受け、戦後日本の社会運動、戦後補償、反戦平和運動、慰安婦問題について勉強した。特に戦後の日本社会について興味を持った。中国でこのような戦後平和運動について聞いても、みんな知らない。私はこのような日本社会の人々の取り組みを一人でも多くの中国人が知れば、戦争の痛みの癒しにつながり、そのことが歴史認識や東アジアの明るい未来のためのきっかけになると考える。

日中の関係は微妙だが、人と人との心は近いと思う。留學生活を送りながら中日交流のためにどんなことができるかを考えている。私が日本で感じたことを周りの人に伝えたい。支えてくれている人々に恩返ししたい。

また、私は日本で生活をし、多くの経験からい

ろいろなことを学びながら日本語能力を向上させたいが、視野を開いて、異文化を受け入れ、人として成長したいと思っている。両親の生活を変えたい。

高校に入ってから、両親が離婚した。私は母親と一緒に暮らしてきた。妹はお婆さんのところで小学校に通っていた。高中三年間、母親は一生懸命働き、大変苦勞して学費を出してくれた。母親に支えられ、頑張って大学に進学した。大学時代は奨学金をもらいながら、家庭教師と飲食店のアルバイトで何とか生活出来た。

いいチャンスに恵まれて、一昨年、交換留学が決まった。しかし、留学のお金は母親一人で厳しくて、どうしようもなかった時に、父親も応援してくれた。父親は大型トラックの運転手である。収入は不安定だが、精一杯頑張ってくれた。両親は離婚したが、私と妹を愛する気持ちは変わらない。大学院まで行かせてくれた両親に感謝している。

現在、中学生の妹もいることから、経済面では苦境を強いられている。両親にすこしでも負担を減らそうと思い、アルバイトの掛け持ちをしている。両親はこれから年を取っていく、妹はまだ若い。私は人生を変えたい、幸せになりたい、そして両親も妹も幸せになれると思う。将来、できれば、妹にも海外留学に行かせたいと思っている。

卒業後、日本で就職したいと考えている。日中経済がますます進んでいく中、学んできたことを仕事に活かしたい。日中交流のために、私には何が出来るかまだわからないが、ただ、お互いの良さと違いを知ってもらいたい。コミュニケーションは言葉ではなく、気持ちだと思う。感謝の気持ちを込めて頑張って生きたい。

第14次中国経済視察報告

日 程 2016年9月7日から9月13日まで

第14回経済視察研修団参加者名簿

団長 中田 博幸 副団長 佐藤 良雄 武井 文夫 秘書長 吉田 正博

氏名	会社名	役職	当協会役
中田 博幸	(一社) 北海道日中経済友好協会	会長	会 長
佐藤 良雄	キャリアバンク 株式会社	代表取締役	専務理事
吉田 正博	パワーリンク (株) 札幌支社	支社長	事務局長
武井 文夫	第8回冬季アジア札幌大会組織委員長	競技部長	理 事
滝沢 俊行	行政書士滝沢俊行事務所	所長	理 事
及川 利幸	有限会社 及川ビル	代表取締役	会 員
大西 広記	キャリアバンク 株式会社		会 員
河本 文治	一達国際 株式会社	代表取締役	会 員
牟 治	夫人		会 員
嶋田 健	株式会社 テレビ北海道	顧問	会 員
高田 英基	札幌経済交流室	室長	
萩原 麻代	赤れんが行政書士事務所	所長	会 員
村上 淳	札幌通商事 株式会社	代表取締役	会 員
里見 翼	株式会社 メディア・マジック	営業部長	会 員
加藤 淑子	北海道日中経済友好協会	事務局	事 務 員

視察報告

9月7日(水)

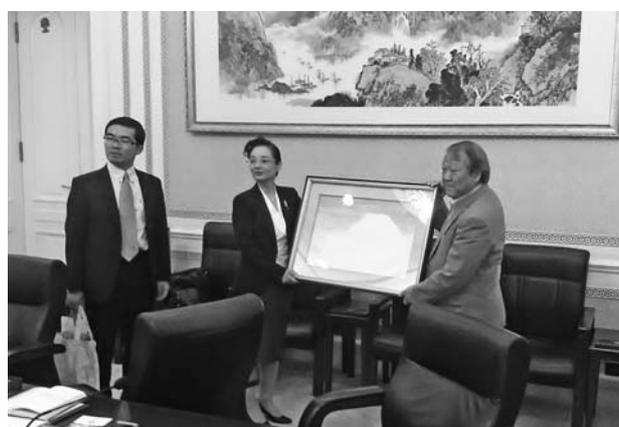
11:30 結団式 千歳空港国際線団体待合室



13:50 発C A170便にて北京市出発

17:05 北京首都空港到着

19:00 北京セミナー開催 講師は下記3名
李鉄民元駐札幌中国総領事
白涛元駐札幌中国領事(講演録後掲)
高田英基札幌市経済交流室長



9月8日(木)

11:00 中日友好協会へ公式訪問

中国日本友好協会王秀雲副会長はじめ役員の方々と懇談

中田会長から記念品を贈呈



18:00 現地企業と経済交流会

9月9日(金)

8:40 北京南駅より山東省へ、世界遺産泰山見学



17:00 曲阜市へ移動

18:30 曲阜市到着

9月10日(土)

8:30 世界文化遺産の三孔視察観光



13:30 日照市へ移動

17:00 日照市到着

日照市涂敬昌安久市長ら市政府幹部と会
開催(写真は表紙に掲載)

9月11日(日)

9:30 日照市山東美佳集團の水産加工工場見学



11:30 日照港展覽館視察



12:00 青島市へ移動(2時間)

15:30 青島ビール工場見学



9月12日(月)

9:00 青島市商工會議所所属企業40社との交流会



12:00 昼食会

14:00 青島市内観光

19:00 北京市へ移動

9月13日(火)

8:00 北京首都空港出発

12:50 新千歳空港到着 隨時解散



講演録

講師 白涛元駐札幌中国領事
開催日時 2016年9月7日 19時30分
開催場所 北京市・北京宮正味大酒店

皆様、こんばんは。ようこそ北京へいらっしゃいました。私は北京外交人員服務局の白です。2003年から5年間札幌総領事館に勤めました。在任中大変お世話になります。改めて御礼申し上げます。

私は今、日本と交流仕事をやっております。技能実習生を派遣する前に、日本語と日本事情を教える教育センターのセンター長を担当しております。毎年300人近くの農業研修生、工業研修生を茨城、岐阜に送ります。仕事を通して、中日両国は実務交流の時代に入ったと深く感じます。

中国国家统计局が今年上半期の中国のマクロ経済データを発表しました。それによると上半期の中国の国内総生産（GDP）は前年同期に比べ6.7%成長し、経済は引き続き全体的に安定し、安定の中で前進する発展基調を保ち、主要な指標の動きも安定し、予想と合致していました。

2016年G20首脳サミットが9月4日から5日にかけて杭州で行われました。テーマは「革新（イノベーション）、活力、連動、包摂の世界経済構築」。これは中国にとって今年最も重要なホスト国外交活動で、重大な政治・外交的意義を持つだけでなく、深遠な経済・社会的影響を持ちます。

中国が描くビジョンは、各種リスクと課題に対応し、世界の経済発展の方向を示さなければなりません。また金融危機発生時の、G20加盟国の協力・ウィンウィンというパートナーシップを発揮し続ける。さらに中国は新興国と発展途上国の代表性と発言権の強化、国連の持続可能な開発のための2030アジェンダの実施に力を尽くします。中国は誠意を持って発展の新ビジョンを描き出しており、世界各国と協調・協力を強化し、「革新的で、活力ある、連動した、包摂的な世界経済の構築」に向けてたゆまず努力しています。

来年と再来年はそれぞれ中日国交正常化45周年

と『中日平和友好条約』締結40周年の年にあたります。双方ともこのチャンスをつかみ、戦略面において積極的かつ友好的な、善意ある政策を積極的に実施し、両国間にある各種新しい問題や古くからの問題を適切に処理し、交流と協力を安定的に進め、両国関係の安定と改善の勢いを守るべきです。

日中両国は一衣帯水の重要な隣国であり、近年、中日関係には波風もありましたが、このような時期こそ、中日双方が友好の信念を固め、互惠とウィンウィンを堅持し、アジアの発展と繁栄のための重責を共同で担わなければなりません。両国人民、特にその肩に両国の未来を背負う青少年が自覚的に中日友好の宣伝員となり、中日友好の宣伝し、呼びかけるべきです。

帰国以来、私は中日交流のため、微力ですが、仕事を進めています。北京の代表団が日中青少年書画交流福岡大会を参加し、また中国赤十字国際部の日本九州介護施設の見学、中国ロボット企業の日本関連企業：安川電機、ファナック、三明機工工場視察、天津市政府の東京、横浜視察、中国科学協会のロボット大会日本関連企業参加の誘致など、小さい窓口、橋として、頑張っております。

今回の訪中団の皆様は両国の各分野の交流協会では重要な役割を果たしています。今回の訪問を通じて中国の発展に対する認識と理解を深めるとともに、また帰国後に同僚や親戚友人に客観的かつ全面的な中国を紹介するとともに、それぞれの職場で中日関係の改善・発展、中日交流協力の促進に貢献されるよう高く期待しております。

最後になります。今度の訪中のご成功、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



ご講演をする白涛元領事